

元 堺市立小学校長

西尾 薫

はじめに

堺市に生まれ堺市に育つ。堺のまちを愛し、堺の伝統文化を子育て支援活動に生かしたボランティア活動に取り組んでいる。

定年退職の日まで小学校教育に、限らない夢を描いて、こども達と充実した日常生活を過ごす。

退職後に経験した幼稚園教育、幼児期の生活体験・保育実践の数々を小学校教育に繋ぐことの重要性を痛感する。

今、素晴らしい子育ての数々は、園児と小学生に教えられ学んだものである。

子どもが大好きで小学校教師になり、教育の根幹なるものを教えてくれた子どもたち、この世に生を受けて3年余りの天使のような可愛い幼子から多くを学んだ子育ての実際。

貴い、ひとすじの道で感じ取った感謝の体験、その中から、2～3の事例を取り上げる。

茶の湯体験

家庭でも、幼稚園・学校・地域においても、一人ではできない体験を考えて堺が誇る茶の湯体験を取り上げる。

また、グローバル時代に生きる子どもたちに日常生活の中に日本文化を正しく位置付けることを大きな願いとする。

- ・お茶碗は二つの手で持つ・履物を揃える
- ・両手を揃えて挨拶をする など

一つひとつの行動に感謝の気持ちを持ち人とのふれあい、一緒に行動することの大切さを共有し、一人ではできない体験に期待する。お茶とお菓子が美味しかっただけでなく、もてなしの心にと願うところである。また、子どもの円満な成長を一人ではできない活動の中で考えた。

子どもたちは、茶の湯体験を通して年齢相応に日本文化を理解し、人と人との連携と協働活動を通して未来の担い手として育つものと思われる。

野点傘にしつらえた、茶道具・季節の花に目をむけたとき、素晴らしい感性でとらえた言葉をかけてくれる。子どもたちの姿から多くを学ぶこと度々である。

活字文化を大切に

幼児期から小学校入学時にかけて経験するひらがな文字の練習。

子どもたちは、まだまだ、末梢神経の未分化な指先に力を入れて、横の線・縦の線・曲線・斜めの線などひらがな文字の書写に懸命に取り組む。全く至難の技である。

しかし、最善を尽くしての挑戦である。限りない興味・関心に加えて一字一字書き終えたときの大きな達成感は見事な笑顔になる。

子どもたちは、ひらがな文字が大好きである。練習の順序は

ひと筆文字から書き始める。

つ、く、の、へ、て、ろ、る、ん、
ここで言葉遊びを楽しむ。くつ つくし てん
次に、ふた筆文字へと進む。

い、う、こ、ち、と、ひ、み、め、ぬ、
り、わ、よ、

ここで言葉遊びを楽しむ。うし ひよこ ぬりえ
書けるようになったひらがな文字を組み合わせて、言葉づくりを楽しむ子どもたちには、はかり知れない大きな達成感がある。同時に素晴らしい笑顔が見られる。

子どもを認めて育てる。幼いなりにできたこと

に惜しめない誉め言葉をおくる。いつもこのことを大切にしてきた。

子どもたちは、ひらがな文字が書けるようになった自信を、人と人の心に繋いでくれる。

「西尾先生文字練習ありがとう」「今度の文字練習いつ」と声をかけてくれる。

可愛い子どもたちの大きな喜びを感じることで度々である。

最近、活字が繋ぐ日本文化という報道記事が目につく。活字が伝える日本文化を大切に思う。

豊かな運動遊びを大切に

子どもがたちは、公園で、スポーツ広場で、園庭で、学校の運動場で豊かな運動遊びを通して心も体も成長していく。

家庭ではご家族のみなさんと一緒になっているような遊びを楽しむ。動きの基本を遊びに乗せて心も体も成長していく。

子どもたちの挑戦課題の一つに「逆上がり」がある。なぜ上がれないのか、子どもたちの必死の挑戦が繰り返される。成長発達の途上にある子どもの体力的な個人差もあるがスモールステップで逆上がりのスキルなるものを助言する。

人は皆、両足に体重を乗せて歩いたり走ったりの日常生活である。そこで、逆さ姿勢の逆上がりを大切な運動経験と考えたい。逆さ姿勢の運動経験は、子どもにとって心身の成長発達の刺激に効果的な試みの一つであることを体育関係の雑誌で読んだことがある。

さまざまな運動遊びは、一人ではなく家族の励ましや友達といっしょの頑張りが多い。学校園では、先生たちから大きな拍手をもらったりする。

決して一人ぼっちの遊びに終始しない。

何か一つの運動種目ができた時の達成感は極めて大きい。達成感に繋がるような体験を大切に考えたいものである。それに加えて「やった」「できた」の感動が人と人の心を結び付けてくれる。

地域の子どもは、地域で育てるという連携・協働活動の大切さが提唱されている。新しい学習指導要領の重点課題の一つであると理解している。

したがって、子どもの遊びにも多様な人と人との交わりを大切にしたい学びを十分に考えたいと思う。

まとめ

最後に私が終始一貫大切に考えたいことの一つを述べてまとめにしたい。

私たちの小学生時代は戦争真ただ中であつた。戦場にあつた父親の留守を5人の子育てに懸命にがんばった母。

母を助けて惜しめない愛情で関わってくれた祖父母、幼い日の強烈な印象は私の脳裏から消えることはありません。

家族は、みんな優しい愛・あたたかい心で結ばれていました。

98歳まで元気に生き抜いた母、私の教育理念と共に、人生の大事な師でもありました。

子育て支援活動・青少年の健全育成を家庭・地域・学校園と連携し協働活動を通して明るい社会の実現に向けて取り組んでいきたいと思ひます。

可愛い子どもたちから学んだ貴い教えの一つひとつが大切な教科書です。

私の関係するボランティア活動の根幹は女性の立場で、女性の持つ温かさに細やかさを生かしたものです。慈しみ深き母なる心を持った愛です。つまり、「慈愛」であります。

慈愛とは、慈しみの愛であります。慈しみの愛とは、見返りを求めない愛と考えます。

*「のに」はつきません。

・買ってやったのに ・してやったのに
・言ったのに ・連れて行ったのに

結びにあたり

かけがえのない子どもたちが笑顔輝く家庭・地域社会・学校園で成長することを願って止みません。

皆様のご健康とご活躍を祈念申し上げます。